



食安監発第0620001号
17消安第2866号
平成17年6月20日

内閣府食品安全委員会事務局評価課長 殿

厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長
農林水産省消費・安全局衛生管理課長

食品健康影響評価に係る補足資料の提出について

平成17年6月10日付け府食第592号にて依頼のあった下記の補足資料について別添のとおり提出します。

記

1. パッカーの構造、処理頭数（カナダ）
2. 以下の項目について主な経緯を時系列で箇条書きに記載して整理した表
 - ①米国との協議
 - ②カナダとの協議
3. カナダについて、国際調査団の勧告内容と対応状況
4. 餌の規制の項目別整理（米国における飼料規制の除外品目について）

1. パッカーの構造、処理頭数（カナダ）

カナダにおける主要な食肉加工企業に関する情報

連邦政府に登録されている6施設が、連邦におけると畜能力の90%に相当

施設名	所在地	平均と畜頭数
Cargill Limited; Est. 093	High River, Alberta	4,700 頭/日 (2,350頭/シフト)
Lakeside Packers; Est. 038	Brooks, Alberta	4,000 頭/日 (2,000頭/シフト)
XL Beef; Est.401	Calgary, Alberta	1,040 頭/日 (1シフト制)
XL Beef; Est.597	Moose Jaw, Saskatchewan	1,160 頭/日 (580頭/シフト)
Better Beef Ltd.; Est. 051	Guelph, Ontario	1,940 頭/日 (1シフト制)
Abattoir Colbex Inc.; Est. 053	St. Cyrille, Quebec	950 頭/日 (1シフト制)

(備考)

カナダ政府提供の資料に基づき、農林水産省において作成

2. 以下の項目について主な経緯を時系列で箇条書きに記載して整理した表

①米国との協議

②カナダとの協議

米国との牛肉貿易再開に係る協議の概要

月 日	会合等	結 果
2003年12月24日	米国でBSE感染牛を確認	厚生労働省及び農林水産省は直ちに輸入を停止。
12月29日	日米局長級会合（第1回目）	米側からBSE感染牛の確認について説明。
2004年 1月 8日	日本側現地調査団派遣	BSE感染牛のカナダでの同居牛が米国に輸出されていること、飼料・生体牛の流通などの面で、米国とカナダの牛肉関連産業は強く統合されていること等から、今後米国でBSEが発生しないという保証はないことを指摘。
1月23日	日米局長級会合（第2回目）	米側から追加的なBSE対策について説明。 ・30ヶ月齢以上の牛のSRMを除去 ・歩行困難な牛のと畜禁止等
4月24日	日米局長級会合（第3回目）	専門的技術的事項を議論するワーキンググループを設置するとともに、本年夏を目途に貿易再開について結論を出すべく努力することにつき認識が一致。
5月～7月	日米BSE専門家によるワーキンググループ開催（3回）	ワーキンググループ報告書の取りまとめ。 ・日米間のBSE対策に対する考え方の違いなどを明確化
10月21日 ～23日	日米局長級会合（第4回目）	共同記者発表 ・牛肉貿易再開に係る条件と枠組みについて、両国において必要な手続が完了することを条件に双方向の牛肉貿易を再開するとの認識を共有 ・米国産牛肉の輸入に当たっては、全ての月齢の牛からSRMを除去すること、20ヶ月齢以下の牛由来であることを条件とする。
11月28日 ～12月 5日	米国での現地調査	今後の牛肉貿易再開に向けた検討作業に資するため、関係府省から実務担当者を派遣。
11月 ～2005年4月	数次に渡る実務担当者レベルでの協議	日本向け牛肉輸出証明プログラムについて意見交換。
11月12日 ～2005年2月8日	牛の月齢判別に関する検討会開催（3回）	米側の「牛枝肉の生理学的成熟度に関する研究」に対する検証結果を報告書として取りまとめ。 ・統計学的分析結果と米国産牛肉のBSE感染リスクの程度の評価とを合わせた評価を行うとの条件付きで、21ヶ月齢以上の牛の枝肉を排除する基準としてA40を採用することが可能との結論 ・仮にA40を採用することとなった場合の留意点を指摘
2005年5月13日 ～20日	米国産牛肉等のリスク管理措置に関する意見交換会開催	全国9カ所を実施。
5月24日	米国産牛肉の輸入再開について諮問	—

カナダとの牛肉貿易再開に係る協議の概要

月 日	会合等	結 果
2003年 5月21日	カナダでBSE感染牛を確認	厚生労働省及び農林水産省は直ちに輸入を停止。
6月22日 ～6月29日	カナダでのBSE発生に伴う 現地調査	カナダにおけるBSEの疫学調査の状況等を調査するため、専門家を派遣。
6月 ～2004年5月	数次に渡る閣僚級、実務担当 者レベルでの協議	カナダでのBSE対策についての情報交換。
2004年11月5日	実務担当者会合	米国と同様の条件とすることで認識を一致。 ・全ての月齢の牛からSRMを除去すること ・20ヶ月齢以下の牛由来であること
11月28日 ～12月 5日	カナダでの現地調査	今後の牛肉貿易再開に向けた検討作業に資するため、関係府省から実務担当者を派遣。
11月 ～2005年5月	数次に渡る実務担当者レベル での協議	具体的な輸出基準について意見交換。
2005年5月13日 ～20日	カナダ産牛肉等のリスク管理 措置に関する意見交換会開催	全国9カ所で実施。
5月24日	カナダ産牛肉の輸入再開につ いて諮問	—

3. カナダについて、国際調査団の勧告内容と 対応状況

調査団の勧告	勧告に対するカナダ政府の対応
<p>特定危険部位 (SRM) の禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> SRM の除去及び処分を早急に実施すべき。 SRM が食品及び動物用飼料に含まれないことを保証する措置の時宜を得た全国的な実施。 と畜時の SRM の汚染を避けるようにすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> SRM 規制を施行（政府登録施設では 2003 年 7 月 24 日発効、その他の施設では 2003 年 8 月 23 日発効）。 SRM は、30 ヶ月齢以上の牛の頭蓋、脳、三叉神経節、眼球、扁桃、脊髄、背根神経節と全ての月齢の牛の回腸遠位部（除去を完全に実施するため、実際は小腸を除去）と定義。 回腸遠位部以外の小腸を食用に供せるよう見直しを実施中。 頭蓋腔に空気を注入する貫通打撃器具を用いたスタニング及びピッシングの禁止。
<p>先進的食肉回収／機械的回収食肉</p> <ul style="list-style-type: none"> 先進的食肉回収 (AMR) 手法及び機械的回収食肉 (MRM) のシステムは、潜在的な感染性組織の原料への混入を防ぐように、実施される必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> カナダでは、骨から筋肉組織を分離する際に圧力を用いる食肉回収システムにおいては、原料として全ての食用動物の頭蓋を原料とすることを禁じている。 と畜場においては、家畜の脊髄は脊柱から除去されるため、食肉回収システムで材料とされても汚染することはない。 30 ヶ月齢以上の牛の脊柱は、MRM や AMR での使用不可。
<p>SRM、AMR 及び MRM の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 中枢神経組織が食品に含まれていないことを保証するために、採材及び検査プログラムを導入すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 2003 年 6 月、カナダ食品検査庁 (CFIA) は、AMR 及び MRM 製品に脊髄及び背根神経節の組織が含まれないことを証明するためのモニタリングプログラムを施行した。 検査中の各ロットは、結果が判明するまで保留され、いかなる陽性製品も非食用レンダーリングに送られる。
<p>サーベイランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ハイリスク牛に重点を置いた全国的な拡大サーベイランスプログラム案を支持。 CFIA によって確認されたコホート牛を対象としたサーベイランスプログラムの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> カナダは 1992 年にサーベイランスプログラムを開始し、2004 年 1 月に拡大サーベイランスを導入。 拡大サーベイランスは、OIE の勧告に従ってリスクが最も高い動物群に焦点を当て、国内の全地域の動物から採材されるように設計されている。 2004 年 1 月以降 53,000 検体が検査され、このうち 23,500 検体以上は地域的にリスクがあると考えられるグループのもの。

<p>飼料規制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肉骨粉による感染性を低減するため、飼料チェーンから SRM を除去。 ・ 反すう動物由来肉骨粉の反すう動物飼料への混入及び交差汚染の機会の回避（この措置を保証するため、哺乳動物由来 MBM を反すう動物に使用すること等を考慮すべき）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カナダは、1997 年に反すう動物由来肉骨粉を反すう類動物に使用することを禁ずる規制を導入。 ・ 2004 年 12 月 11 日に、動物用飼料の材料として SRM、死亡牛及びと畜前検査で廃棄処分となった動物由来の蛋白質を使用することを禁止する規則改正案を提示。（未施行）
<p>個体識別の維持とトレーサビリティシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛個体識別システムの持続的な運用、発展及び拡大の必要性を強調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カナダ牛個体識別プログラムは 2001 年に施行され、バーコード又は無線 IC タグ (RFID) コードに固有の識別番号及び CCIA のマークが付されたカナダ牛個体識別機関 (CCIA) 認可の耳票を、牛が出生した群を離れる前に装着する必要がある。 ・ 2006 年の秋までに、現行のバーコード耳票の RFID への変更を進めることで個体識別システムの向上を図っている。 ・ 出生日情報の報告は自主的に行われ、生産者は 2005 年 3 月に利用可能となり、2004 年 1 月 1 日以降に生まれた牛の出生日の登録が促進された。 ・ 家畜の個体識別プログラムが拡大され、羊の個体識別の義務化を 2004 年 1 月 1 日に開始した。
<p>輸入政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入政策は、持続する海外のリスクに対応するために、継続的な評価を行うべき。 ・ 国内に輸入される製品は国内と同程度に厳しい基準を満たすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CFIA は、カナダの BSE 輸入政策の見直しを行い、その評価に基づいて規則の改正を提案した。

<p>輸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BSE がさらにまん延しないために、輸出政策及び規則を再評価すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カナダ政府は、2003年5月のBSE発見直後に、肉骨粉の輸出証明書を差し止めた。 ・ 輸入国の要件を満たしているというCFIAの証明書がない限り、食肉製品の輸出は禁止される。 ・ 輸入国が規定した条件を満たしているというCFIAの証明書がない限り、反すう動物生体の輸出は禁止される。
<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者、獣医師、飼料産業、と畜産業その他関連産業の職員への継続的な周知及び教育は、様々な措置にとって必要不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CFIA その他の連邦政府機関、地方政府機関及び産業利害関係者は、継続的な教育及び周知プログラムを実施している。 ・ 獣医師、家畜所有者、市場及びと畜場の職員・検査員を対象としたトレーニング活動が行われている。
<p>今後の発生時の調査/処分方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より限定的な形で、今後の調査を行うことも可能。 ・ 飼料規制が行われている限り、関連牛の処分は疫学調査後でよい。 ・ 処分対象はOIEのBSEコードの規定に基づくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価チームの勧告に従い、今後の調査においてはOIEのBSEコードに規定される処分方針を採用。
<p>施行（実施の管理）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての措置は、明確でよく理解されている指針を持ち、遵守、証明活動によって裏づけられるべき。 ・ 地方の管理は、中央当局によって監視されるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CFIAは、結果に基づく管理責任体制（RMAF）をBSEプログラムのために構築した。 ・ RMAFには、CFIA検査員に対する、検査時の新たな要件や非遵守状況に関する対応を指導するための遵守規定や執行方針も含まれている。
<p>施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断検査機関を含む優良な獣医学基盤は、疾病の調査等に必要不可欠であり、その強化は、BSE対策を継続するために必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カナダは現行の施設を維持するとともに、診断、調査等の領域を拡大することを約束。 ・ カナダ政府は、BSE対応の人員の雇用のために、CFIAの予算として5年間で1億2000万ドル（約104億2千万円）以上配分することを承認した。

Canada's response(s) to supplemental questions raised by the Food Safety Commission Expert Prion Committee - June 10, 2005.

The Canadian government's response to recommendations of the international investigation team

As part of Canada's comprehensive investigation of the first indigenous case of bovine spongiform encephalopathy (BSE) in North America, the Canadian Food Inspection Agency invited four internationally recognized BSE specialists to evaluate Canada's BSE response and provide recommendations for future policy development.

The evaluation team consisted of Prof. U. Kihm (Switzerland), Prof. W. Hueston (USA), Dr. D. Heim (Switzerland) and Dr. S. MacDiarmid (New Zealand). Canada provided an overview of the epidemiological investigation, the actions taken to date, and the scope of options and measures being considered to adjust the domestic policies to address the confirmation of BSE in Canada and within the broader North American context.

The evaluation team acknowledged the openness, full disclosure and access to personnel provided by Canada, not only to the evaluation team, but also to the international community and public at large. The team recognized that the approach to sharing of information and communication demonstrated by Canada is a model to be emulated.

In addition to acknowledging the comprehensive scope, level of analysis and thoroughness of the investigation, the evaluation team also confirmed that the measures previously implemented by Canada to address potential BSE risk had achieved their designed outcome, sighting the identification of the positive animal in a manner which precluded its entry into the human food chain as an example. Furthermore the team acknowledged that the suite of risk management measures that had been implemented by Canada, over a number of years, have reduced the risk of spread and amplification of the disease within the national herd.

Nonetheless, the evaluation team was of the view that confirmation of a first indigenous BSE case requires that Canada review its existing BSE policies and in this context the team recommended that any revisions be developed to achieve the following objectives;

- reduce the public health risk for consumer protection
- further limit the potential for recycling and amplification of the BSE agent
- establish a benchmark for the effectiveness of measures through surveillance
- prevent any inadvertent introduction of BSE from abroad in the future
- contribute to the prevention of the spread of the epidemic worldwide.

Within the framework established by the previous objectives the team identified a number of measures which should be given priority for adoption. However, the team also recognized that depending on the evolution of BSE in Canada, and within the broader North America, modification of the recommended measures may be appropriate.

1/ Prohibition of Specified Risk Materials (SRM)

The evaluation team emphasized that the implementation of an SRM ban is the most critical and valuable central measure for public health protection and food safety. The list of material considered as SRM and the age of animals included must be based on science to ensure that potentially infected material does not enter the feed and food chains. The list of SRM must be based on knowledge derived from the extensive studies on cattle, which have demonstrated that BSE infectivity may be present in brain, spinal cord, trigeminal ganglia, dorsal root ganglia, terminal ileum, eyes and tonsils. The age of the cattle included in the ban should be determined by science and practical aspects of implementation must also be considered. The timely and full national implementation of this measure should be a priority.

Additional measures to avoid contamination with SRM at slaughter and during processing should also be considered (e.g. stunning techniques).

After consultation with industry stakeholders, international trading partners and sub-national governments, the Government of Canada implemented an SRM ban, effective from 24 July 2003^{1,2} in federally registered establishments and from 23 August, 2003 in all other establishments. SRMs are defined in regulations under both the Food and Drugs Act¹ and Health of Animals Act² as skull, brain, trigeminal ganglia, eyes, tonsils, spinal cord and dorsal root ganglia of cattle aged 30 months or older, and the distal ileum of cattle of all ages. Until such time as suitable techniques are developed to ensure that the dorsal root ganglia can be entirely removed from the vertebral column, the Government of Canada's Meat Hygiene Directive³ issued under the Meat Inspection Regulations, mandates that the vertebral column from all cattle aged 30 months or older must be removed and disposed of as inedible product. The directive also stipulates that the vertebral column of these cattle cannot be used in the preparation of mechanically separated meat or finely textured meat from advance meat recovery systems. In addition, to ensure the complete removal of the distal ileum, the entire small intestine of all cattle regardless of their age must be removed and disposed of as inedible product. This latter requirement is under review and could be changed by defining distal ileum and allowing the remainder of the small intestine to be harvested for human consumption.

Operators are responsible for the development, implementation, and maintenance of control programs (including HACCP plans where appropriate) that address all components of this Specified Risk Material (SRM) removal policy.

Furthermore, the Meat Hygiene Manual of Procedures⁴, in Section 4.4.5 explicitly prohibits the stunning of animals using a penetrative percussion device that injects air into the cranial cavity. The use of a pithing rod is also prohibited.

2/ Advanced Meat Recovery / Mechanically Recovered Meat

In Canada, the skull from any food animal species is prohibited from use as a source material in meat recovery systems that use pressure to separate muscle tissue from bones. In addition, the spinal cord of any red meat species (i.e. livestock species) must be removed from the vertebral column on the slaughter floor and therefore would not be present if the vertebral column were used as a source of material in meat recovery systems. These requirements predate the

occurrence of BSE in Canada in May 2003.

As noted above, the vertebral column of cattle aged 30 months or older cannot be used in the preparation of mechanically recovered meat (MRM) or in advanced meat recovery (AMR) systems.

These measures effectively exclude raw materials containing potentially infectious tissues (skull and vertebral column) from the human food chain

3/ Control of SRM, AMR and MRM

In June 2003, the Canadian Food Inspection Agency implemented a monitoring program to verify the absence of tissue from the spinal cord and dorsal root ganglia in AMR and MRM products. Each lot being tested must be held until the results are known and any that test positive are directed to inedible rendering.

4/ Surveillance

The review team acknowledged that adjustments to Canada's BSE surveillance are warranted in order to provide an accurate estimate of the prevalence of the disease and to judge the effectiveness of measures implemented over time.

The team also emphasized that the BSE surveillance continue to focus on the highest risk populations of adult fallen stock and dead stock, cattle demonstrating clinical signs compatible with BSE and downer cattle. Furthermore, in accordance with the investigations carried out by the Canadian Food Inspection Agency, specific geographic and temporal risk groups within the national cattle population have been identified. Targeted surveillance activities to encompass this cohort of animals is to be encouraged.

Canada implemented a targeted BSE surveillance program beginning in 1992 and introduced measures to further enhance BSE surveillance in January 2004. The enhanced BSE surveillance program continues to focus on the highest risk subpopulations of adult cattle, consistent with the recommendations of the evaluation team and of the World Organization for Animal Health (OIE). Furthermore, it is designed based on the demographics of the Canadian cattle population to ensure that a representative sample of animals are from all regions of the country. Since January 2004 over 53,000 samples have been evaluated, and over 23,500 of these were derived from animals associated with the geographic risk group identified during the initial epidemiological investigation. This enhanced BSE surveillance has resulted in the detection of two additional BSE cases. Details of Canada's enhanced BSE surveillance program, including the test results, are available at the Canadian Food Inspection Agency website: www.inspection.gc.ca.

Currently either the Prionics® Check Western blot or the BioRad TeSeE elisa is used to evaluate samples for the presence of BSE. Confirmatory testing is performed at Canada's National BSE Reference Laboratory and utilizes an immunohistochemistry procedure that has been designed to be as sensitive as possible. The Canadian IHC test method protocol employs at least 10 different monoclonal antibodies on approximately 30 to 40 tissue sections. Also, serial sections from 5 to 10 different levels of the obex (brain stem) are examined for histopathology.

5/ Feed Restrictions

The review team strongly endorsed the exclusion of specified risk materials from the feed chain as an effective means to reduce infectivity in meat and bone meal (MBM). Inclusion of any ruminant derived meat and bone meal in ruminant feed rations should be avoided and opportunities for possible cross contamination eliminated.

Canada introduced regulations prohibiting the use of ruminant derived MBM in ruminant rations in 1997, and on December 11, 2004 the Canadian Food Inspection Agency proposed regulatory amendments to the *Feeds Act*, *Fertilizers Act*, *Health of Animals Act*, and the *Meat Inspection Act* to prohibit the use of protein derived from specified risk material, dead stock and animals condemned at antemortem inspection in the preparation of all animal feed. The proposed regulatory amendments, including the regulatory impact analysis statement is available for viewing on the Canadian Food Inspection Agency websites. The comment period for this proposed regulatory amendment has now closed and the Canadian Food Inspection Agency is considering the merit of comments received, after which the proposed regulatory amendment will be finalized.

6/ Identification Preservation and Traceability Systems

The evaluation team reinforced the need for continuous investment, improvement and extension of the cattle identification system.

Implemented in 2001, the Canadian Cattle Identification Program requires the individual identification of all cattle moving beyond their herd of origin. A Canadian Cattle Identification Agency (CCIA) approved ear tag with a unique identification number, the number in a bar code or radio frequency identification (RFID) code, and the CCIA logo must be applied to each animal prior to the animal leaving its herd of origin. The unique number of each individual animal is maintained to the point of carcass inspection where the carcass is approved for human consumption or is condemned. The CCIA number is then retired from the CCIA database and the tag is destroyed.

Cattle identification is being improved by requiring that those producers currently using bar coded ear tags change to radio frequency identifiers by the fall of 2006. In addition a series of software enhancements to the database have been completed or are in progress. These enhancements include the addition of modules for age verification, premises identification, radio frequency identification, animal movements and sightings, group and lot identification, value added and zoning. Some of these enhancements will also support the identification and traceability requirements of other sectors such as pigs.

The reporting of date of birth information is a voluntary, industry driven initiative, which became available to producers in March 2005, and facilitates capture of date of birth information in those calves born after January 1, 2004.

The livestock identification program has been further expanded to include mandatory identification of sheep beginning January 1, 2004.

Additional information regarding Canada's national cattle identification program can be found at: <http://www.canadaid.com/index.shtml>

7/ Import Policies

The evaluation team was of the view that import policies should be subject to ongoing review to address continued global risks and to ensure that products entering the country fully meet the same stringent standards for health protection prescribed domestically.

The Canadian Food Inspection Agency has reviewed Canada's BSE import policies and on the basis of this review is proposing regulatory amendments. The proposed amendments are fully consistent with the World Organization of Animal Health (OIE) and with the substance of the North American BSE import standard agreed to by officials from Canada, Mexico and the United States. The proposed draft BSE import policy for bovine animals and their products, and an accompanying consultation paper, have been broadly distributed to stakeholders with an invitation to provide comments on the proposed policy revisions.

8/ Export

In accordance with its responsibilities as recommended by the World Organization for Animal Health (OIE), the Government of Canada suspended the export certification of meat and bone meal immediately following the detection of BSE in May 2003.

The *Meat Inspection Act* prohibits the exportation of meat products unless they are certified by the Canadian Food Inspection Agency that they meet the requirements of the importing country. As a minimum standard, all meat products destined for export must at least comply with Canadian domestic standards, which prohibits SRM from the human food supply.

The *Health of Animals Act* prohibits the exportation of live ruminant animals unless certified by the Canadian Food Inspection Agency that the animal meets the conditions prescribed by the importing country.

9/ Education

The evaluation team emphasized the critical need for ongoing education and awareness, at all levels of the industry, to ensure compliance with BSE controls is maintained. The Canadian Food Inspection Agency, other federal and provincial government departments and industry stakeholders have ongoing education and awareness activities to ensure that all stakeholders and the general public are fully aware of the measures Canada has taken, or are proposing, to mitigate the risk of BSE and to protect human and animal health. This includes risk communication, extensive consultation and general public awareness activities to ensure that there is a broad based understanding of the nature of BSE and the safety of consumer products. There is extensive use of the internet as well as the local and national print media, 1 - 800 call centres, and the commitment of the CFIA and other government departments and industry leaders to providing factual, science based information directly to interested parties through public meetings etc. In addition there have training sessions targeting veterinarians, livestock owners, auction market and abattoir workers and inspection staff. The activities of government is further augmented by the involvement of both national and regional industry groups which provide an active forum for the dissemination of information to their memberships.

10/ Future Case Investigations

Consistent with the recommendations of the evaluation team, in all future case investigations Canada has adopted the World Organization for Animal Health (OIE) culling policy, as described in the OIE Terrestrial Animal Health Code, BSE Chapter.

11/ Enforcement (control of implementation)

In concert with Canada's announcement to require the removal of SRM from the food chain, to enhance surveillance and enhance animal identification, the Canadian Food Inspection Agency (CFIA) developed a Results Based Management Accountability Framework (RMAF) for BSE programming. The RMAF includes performance indicator that speak not only to activities (e.g. number of inspections, samples collected, etc.) but also their impacts (e.g. CFIA interventions which achieved or improved the level of compliance). Implicit within the RMAF is the development of compliance and enforcement strategies that guide CFIA inspectors in the systemic and on-site measurement of compliance to the new requirements and their response to non-compliance situations.

12/ Infrastructure

Canada recognizes the importance of a good veterinary infrastructure in support of diagnostic capability, surveillance and policy considerations. Canada is committed to maintaining the current infrastructure and has expanded capacity in the area of laboratory diagnostics, surveillance, and regulatory enforcement.

While Canada's veterinary infrastructure was able to respond to the challenges presented by the May 2003 diagnosis of BSE the response did require significant reallocation of resources. As noted by the international team, enhancements were needed to ensure that the efforts against BSE could be sustained without compromising other animal health priorities. In recognition of this, the Government of Canada has approved the allocation of more that \$120 million over five years to the CFIA's budget to enable hiring of additional staff for BSE related activities, including verification of SRM removal and disposition, surveillance, animal identification and export certification.

References:

- 1 Regulations amending the Food and Drug Regulations (1389 - Specified Risk Material), July 24, 2003.
http://www.hc-sc.gc.ca/food-aliment/friia-raaii/food_drugs -aliments_drogues/part -partie_11/e_1389.html
- 2 Regulations amending the Health of Animal Regulations (SOR/2003-264), August 13, 2003.
<http://www.inspection.gc.ca/english/reg/approe.shtml>
- 3 Meat Hygiene Directive (2003-18), effective from July 24, 2003.
<http://www.inspection.gc.ca/english/anima/meavia/mmopmmhv/direct/2003/direct18e.shtml>
- 4 Meat Hygiene Manual of Procedures
<http://www.inspection.gc.ca/english/anima/meavia/mmopmmhv/mane.shtml>
- 5 Regulations amending certain regulations administered and enforced by the Canadian Food Inspection Agency
http://www.inspection.gc.ca/english/reg/consultation/20098_e.shtml
- 6 Draft BSE import policy for bovine animals and their products
<http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/dismala/bseesb/imp/bovpole.shtml>
- 7 Revising the Canadian Food Inspection Agency's BSE Import Policy for Bovine Animals and Their Products
<http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/imp/consulpape.shtml>

4. 餌の規制の項目別整理（米国における飼料 規制の除外品目について）

米国における飼料規制除外品目の項目別整理

品目名	使用方法(加熱処理条件等)	使用対象動物			備考(当該品目区分に含まれる製品例など)	
		牛(乳牛・肉牛)等反すう動物	豚	鶏		
牛由来	MBM	特に定めていない	×1997.8	○	同左	肉骨粉
	SRM	特に定めていない	×1997.8	○→×検討中	同左	
	死亡牛、歩行困難牛	特に定めていない	×1997.8	○→×検討中	同左	
	油脂	特に定めていない	○	○	同左	
	乳・乳製品	特に定めていない	○	○	同左	
	血液・血液製品	特に定めていない	○→×検討中	○	同左	血粉、血しょうタンパク
	その他タンパク		×1997.8	○	同左	肉粉、蒸製骨粉、加水分解タンパク
豚由来	MBM	牛へは豚由来蛋白のみであれば使用可	○→×検討中	○	同左	肉骨粉
	血液・血液製品	特に定めていない	○→×検討中	○	同左	血粉、血しょうタンパク
	その他タンパク	牛へは豚由来蛋白のみであれば使用可	○→×検討中	○	同左	肉粉、蒸製骨粉、加水分解タンパク
馬由来	MBM	牛へは馬由来蛋白のみであれば使用可	○→×検討中	○	同左	肉骨粉
	血液・血液製品	特に定めていない	○→×検討中	○	同左	血粉、血しょうタンパク
	その他タンパク	牛へは馬由来蛋白のみであれば使用可	○→×検討中	○	同左	肉粉、蒸製骨粉、加水分解タンパク

鶏由来	MBM	特に定めていない	○→×検討中	○	同左	チキンミール、フェザーミール
	卵・卵製品	特に定めていない	○	○	同左	
	血液・血液製品	特に定めていない	○→×検討中	○	同左	血粉、血しょうタンパク
	その他タンパク	特に定めていない	○→×検討中	○	同左	Poultry litter
魚由来		特に定めていない	○	○	同左	フィッシュミール
その他		調理して食用に供された後に熱処理の上、飼料に供される検査済み肉製品	○→×検討中	○	同左	残飯(plate waste)など

注1：**反転文字**は、反すう動物への給与禁止除外品目であることを意味する。

注2：検討中とは、飼料規制の強化案についてパブリックコメントの募集を実施済みであるが、現時点（平成17年6月20日現在）で未施行であることを意味する。